

長野県出身プロ野球選手の活躍（続々）

上原 昇（2組）

長野県は全国的にみても、野球後進県といわれているようである。プロ野球選手名鑑でも、確かに長野県（以下県）出身者は数えるほどである。筆者（上原）は、これまで何度も県出身プロ野球選手について紹介してきた。今年のプロ野球は、パ・リーグのオリックス・バファローズが26年ぶりの日本一の栄冠を手にして幕を閉じた。（前身の阪急時代を含め5回目の日本一）そんな中、県出身の若手2選手の大活躍を今年最後の報告としたい。

まず、プロ2年目の牧秀悟選手（24歳、中野市出身、横浜 DeNA ベイスターズ）は、今季の成績などについて、10月6日付のHPで報告済みである。牧選手は12月に来季年棒の契約を更新し、今季から5千万円アップの1億2千万円の大台に到達した。過去、3年目で1億円は6人、そのうち野手に限れば、史上最高額とのこと。牧選手はセ・リーグのベストナイン（二塁手）にも選ばれ、来年はワールドベースボール・クラシック（WBC）に選抜も期待される。



写真 1: 年棒 1 億 2 千万円の更改の牧選手

次に、西武ライオンズの水上由伸投手（24歳、上伊那郡宮田村出身）は、県出身のプロ野球選手としては初めての新人王（パ・リーグ）に輝いた。

12月15日、長野県庁を訪れた水上選手は、阿部守一知事に新人王の報告をし、知事も活躍を讃えたとのこと。

水上選手の年棒契約更新は、3千万円アップの4千万円である。



写真2： 年棒アップでにんまりの水上選手

なお、水上選手の出身地、宮田村は昨年、雑誌「田舎暮らしの本」（宝島社）が選ぶ「住みたい田舎ベストランキング（村の部）」で、総合部門と子育て部門で全国1位となっている。

来シーズンは、牧、水上両選手および他の県出身選手が更なる活躍をして、野球後進県を脱却させて欲しいものである。

（2022.12.18 記）

以上